

Peace Now! 21

沖縄シリーズ その2 ～伊江島の記憶をたどる～

伊江島ってどこ？

沖縄本島の北西に位置する伊江島。本部港からフェリーで30分くらいで行ける離島で、絶好のダイビングスポットがあります。この小さな島を制圧するのに米軍は一週間かかったので、米兵にとって伊江島は、特に“勝ちとった土地”という意識が強いのです。終戦直後は米軍基地が島の面積の約60%を占めていました。住民の土地闘争で一部縮小しましたが、現在でも35%を米軍基地が占めており、パラシュート部隊が訓練を行っています。伊江島の戦中・戦後を理解することは、沖縄の戦中・戦後の本質的な意味が見えてくるので、伊江島は“沖縄の縮図”とも言われます。



レイアウト上の都合で、ここで2点お知らせをします。

★生協ホームページのお知らせ★

名大生協ホームページにて、Peace Now! 2005 Okinawaの報告書と感想文を公開しています。他にも、名大平和憲章など、生協が行っている平和に関する活動も紹介しています。ぜひごらんください。アドレスは<http://www.nucoop.jp/committee/peace.html>です。

★前号のクイズの答え★

前号のクイズの答えをお知らせします。

問題は、①南風原 ②三重城 ③今帰仁 でした。

正解は、①はえばる ②みーぐすく ③なきじん です。場所は、自分で地図を調べてみてください。

②は「みいぐすく」「みえぐすく」も正解としましたが、私が沖縄で見た道路看板には「みーぐすく」と書いてありました。沖縄では、基本的に「城」を「ぐすく」と読みます。

正解者は、テンシャン山脈さん、ひぐらしさん、みかんさん、ダニー・チュンさん、COURSさん、ぴよさん、すのちさん、恋するウサギさんの8名でした。…予想以上に多かったので、賞品はなしです！

電車の中では、自分の好きな音楽をウォークマンで聴きながら、ゆっくりと過ごします。でも、ウォークマンで音楽を聴きすぎると耳が悪くなりそうなので、聴きすぎに注意です。(りじゅ)

高校の頃はいつもライトノベルを1時間で2冊読むのが目標でした。(のん)

団結道場

1961年阿波根昌鴻(あはごんしょうこう)さんが中心となって『伊江島土地を守る会』が結成されました。この団結道場は、守る会の活動拠点として、また“無知で野蛮な”米兵を人間として教育する場として建設されました。もちろん米軍がこのような施設の建設を許すはずはなく、建設途中で米軍による妨害を受けました。小さい建物ではありますが、壁中に歴史上の平和建設に貢献した人物・戦争で身を滅ぼした人物の名前や、平和へのメッセージや名言が書かれています。平和への想いが詰まった場所です。



公益質屋跡



公益質屋とは、昭和初期に市町村または社会福祉法人によって設立された、低金利の庶民金融機関のこと。戦前の伊江島は、これといった産業もなく貧しかったのです。

金融機関だけに頑丈に造ってあったこの建物は、沖縄戦後伊江島で唯一残った建物。本土の戦争をくぐり抜けた建物にはない、陸上での攻撃の跡があります。

アーニー＝パイル記念碑



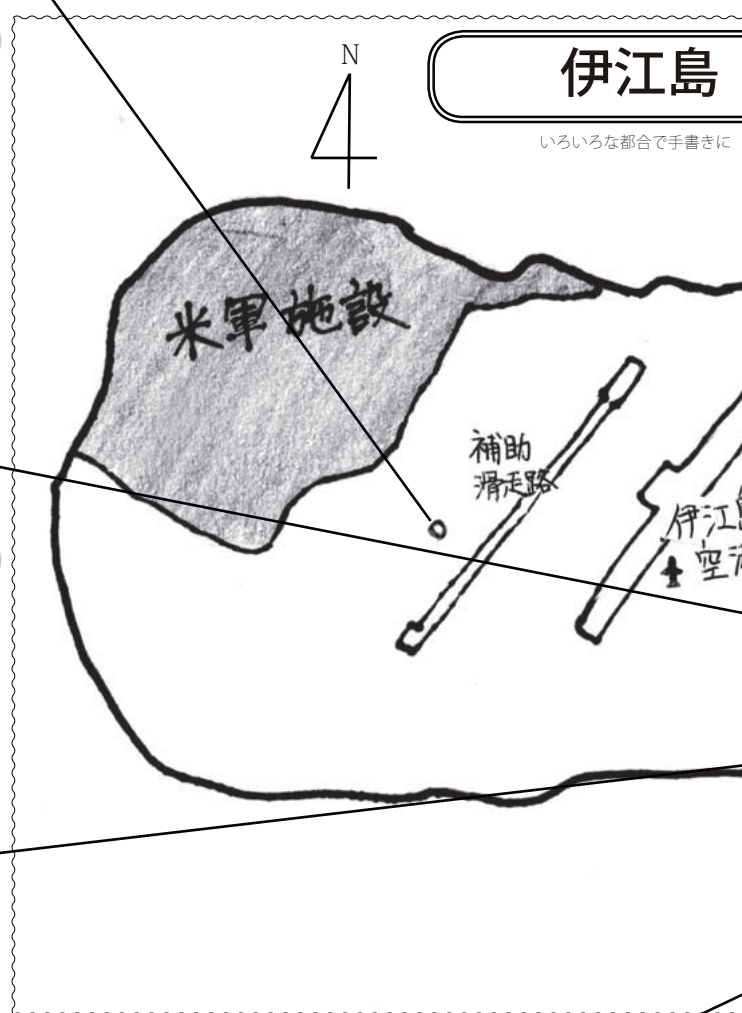
アーニー＝パイルは、あのノルマンディー上陸作戦も取材したアメリカの有名な従軍記者。伊江島で取材していたとき、日本軍の狙撃に遭い、彼は現在碑が立っている場所で亡くなりました。彼の書く記事は、“兵士の心”を描いた人間味溢れるものだったので人気がありました。しかし殺人を義務付けられた兵士の苦しみを理解すればするほど、自分も同じ苦しみに陥っていたそうです。

ヌチドゥウタカラの家

「ヌチドゥウタカラ」とは沖縄の言葉で「命こそ宝」という意味。独特の自然と歴史と文化がつくった沖縄の人々の精神です。ここには阿波根昌鴻さんが自分の足で集めてきた資料が展示されています。他の資料館と違ってショーケースではなく、米軍が訓練で使った爆弾や銃弾などの展示品に直接触ることができます。全国から寄せられた土地闘争への応援メッセージも展示されています。かつての**名大の学生からのメッセージ**もありました。



写っている人はガイドしてくれた沖縄国際大学の方です



伊江島

いろいろな都合で手書きに

城(ぐすく)山・「沖縄の太陽」碑

城山は、標高172mの岩山で、伊江島のシンボルです。

この城山の頂上の岩肌に『沖縄の太陽 黒田操子来島記念』と刻まれた碑があります。当時東京に住む女子高生だった**黒田操子(くろだみさこ)さん**は1955年1月、新聞報道で伊江島のことを知って、伊江島の人々へ激励の手紙を書きました。その手紙は土地闘争で疲弊する島民を励ましました。まさに「身近にできることから」始まり、その愛が世界中へ広がっていくモデルのようなことをした人物です。

map

なりました。申し訳ないです。



アハシャガマ

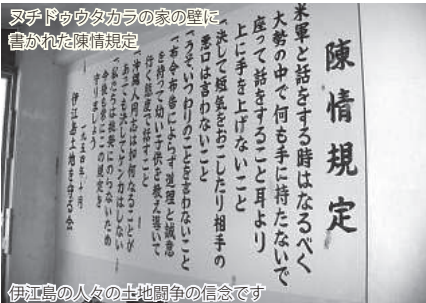
アハシャガマは、奥行20mほどで、一番奥でもそこそこ光が入ってきます。戦時中はここに地元住民(女性・子ども・お年寄り) 150名ほどが避難していました。ここで米兵がガス弾などでガマを攻撃し、中に隠れている人たちに投降を呼びかけましたが、「米軍に捕まれば男は戦車にひき殺され、女は強姦されたあげく殺される。」という日本軍が流した噂が広まっていたので、誰も投降しませんでした。しかし、米兵は入り口において逃げ場はなく、パニックに陥った人々は、爆雷で**集団自決**しました。一口に「自決」と言っても、小さい子や『皇民化教育』を受けていないお年寄りが「お国のために死ぬ」という発想を理解できなかったとは思えません。現在でも地面の下に遺体が眠っているそうです。



アハシャガマの中



アハシャガマの入口



伊江島の人々の土地闘争の信念です

【陳情規定】

- 一. 米軍と話をするときにはなるべく大勢の中で何も手に持たないで座って話をすること耳より上に手を上げないこと
 - 一. 決して短気をおこしたり相手の悪口は言わないこと
 - 一. うそ、いつわりのことを言わないこと
 - 一. 布令布告によらず道理と誠意を持って幼い子供を教え導いて行く態度で話すこと
 - 一. 沖縄人同志は如何なることがあっても決してケンカはしない
 - 一. 私たちは挑発にのらないため今後も常にこの規定を守りましょう
- 一九五四年十月 伊江島土地を守る会

文責:ハムハム